

6 明倫短期大学における理系科目初年次教育プログラムの検討 － 本学学生の理系科目成績と素行や嗜好との関連性の調査 －

植木 一範

明倫短期大学 歯科技工士学科

keywords : 初年時教育, 理系離れ, 基礎学力

はじめに

現代社会において理系離れが進んでいるといわれている。また、少子化による大学全入化も間近く、学生の基礎学力低下は避けられない時代となっている。国家試験合格を念頭に置く本学の教育では、国家試験出題内容に関わる基礎学力については最低限、初年次教育などで再教育する必要があるようである。数学や理科の応用科目について、本学学生は特に苦手とする傾向が強く、初年次教育としてのプログラムを既存科目内において検討している。そこで実態把握を目的として、理系科目の成績と、本学学生の素行や嗜好などとの関連性を調査した。

対象および方法

対象は平成19年度および20年度歯科衛生士学科1年生171名とした。理系科目として今回は数学を多用する「情報統計論」における成績を対象とした。比較したアンケートの内容は、学生の素行について、普段から勉強する姿勢があるか、コンピュータを普段から扱うか、内向的か外向的かなどの項目をあげ、嗜好については、数学や理科に対する得意不得意、その他趣味や興味となる項目をあげて調査した。

結果および考察

アンケートの結果、対象学生の素行や嗜好傾向について、普段から勉強する姿勢があると答えた学生は7.7%と低い値を示した。次いで、IT機器に詳しい19.5%、情報系資格を持つ20.6%、数学が得意である40.0%、理科系に得意科目がある47.1%とそれぞれ半数に満たなかつ

た。一方、情報収集や携帯電話の利用、ショッピングなどの項目では70%以上の者が興味あると回答した。さらに情報統計論の成績をランクに分類し、素行や嗜好の項目との独立性についてカイ2乗検定を用いて分析した。その結果、90点以上のものとコンピュータとインターネットおよびIT、または勉強と美術の項目などとの関連性がみとめられた。また、素行および嗜好の項目間の独立性を検定した結果、理科を得意とするものと、勉強すること、読書すること、買い物をすることそれぞれとの関連性が認められた。これらの結果により、理系科目成績と、本学学生の素行や興味などとの関連と実態が明らかになった。

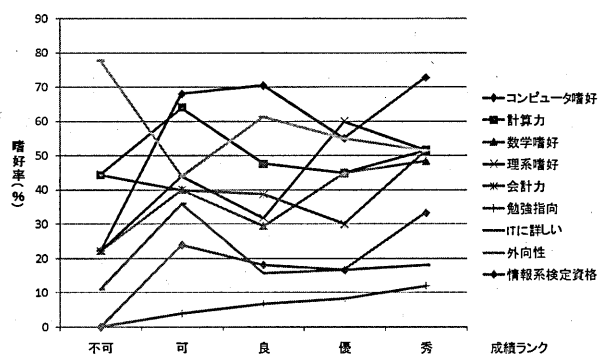


図1 成績ランクと嗜好率

まとめ

本調査により、本学学生の素行や嗜好の特徴が明らかになった。成績不可の学生は、全体的に嗜好数も低く、気力という面で劣る傾向が見受けられた。